

公表

事業所における自己評価結果

事業所名	江南市立わかき園		公表日 令和 8年 3月 23日			
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		・遊びや活動の用途によって部屋を使い分けている。活動に合わせたスペースになるよう調整している。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	○		・利用人数に応じて必要な職員数を打ち合わせの上、配置している。親子の状況により臨機応変にサポートに入るようにしている。	・利用定員に対して入所児が少ない。利用者が増えていくよう、親子通園の良いところ、大切なところ等を伝えていきたい。
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		・一人一人のこどもの発達する姿に合わせて動線を整え、絵カードでスケジュール等を掲示する等配慮している。こどもの視界に気になる情報が入り込まないようパーテーション等を利用して生活しやすくしている。	・建物自体の老朽化により、設備の不具合、故障が相次いでいるため、先行きの不安がある。利用者の不利益にならないよう、検討を進める。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		・環境整備員を中心に毎日室内外の清掃を行っている。活動によって部屋を変えたり空間を整えたりしている。 ・戸外には芝生があり地面のクッションの役割となり、また虫探し等、こどもの興味、関心にもつながり自然と触れ合うことができる。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		・いつでもクールダウンに使用できる場所がある。必要に応じてパーテーションを使えるよう用意している。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	○		・全職員で夕礼や会議を行い、その日の出来事等を振り返りながら、親子に適した支援ができていないか、改善点等もその都度話し合うようにしている。内容は記録し、振り返りに活用している。	・職員各自の物事の捉え方が異なることもあり、常に具体的に確認し合うことが必要。 ・確認不足にならないよう声を掛け合っていく。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・保護者の意向を真摯に受け止め、保護者目線で考え、見直しを図るようにしている。 ・日々、保護者からの声に耳を傾けるようにして改善につなげている。話しやすい雰囲気づくりにも心がけている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		・職員会議だけでなく、その都度伝え合うようにし、毎日の夕礼でも報告して情報共有のうえ改善点を話し合うようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		○		・第三者による外部評価は行っていない。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		・変わりゆく保育、療育に対応するための外部研修を受講する機会は職員全員があり、園内でも研修を開催し情報交換や資質の向上に役立っている。	
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		・支援プログラムを作成、ホームページ上に公表している。保護者が確認できるよう、室内にも掲示してある。保護者に伝わりやすいよう、発達を促す具体的な遊びを表示した。	・文字数が多くなり、わかりにくい点もあると思われる。より読みやすいプログラムになるよう表示方法を見直す。
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	○		・アセスメントはこどもの機嫌のよい時間に行い、こどもの思い、保護者の見立てや考え、ニーズについて把握し分析したうえでこどもに適した計画を作成している。	・保護者のニーズ、目標の設定が高いと感じる場合に、現在のこどもの姿に合わせた目標とのズレを保護者の納得いくように説明することが重要。
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		・アセスメントをもとに作成した計画案について、こどもの支援に関わる全職員で何度も話し合い共通理解し、こどもの最善の利益を考慮した内容となるよう努めている。	・全員が会議の中で意見を出し合えるとよい。
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		・作成時の話し合いの中で、職員間に計画内容が具体的に示され検討もされることで、全職員が計画に沿った支援の実施につなげている。	・共有はしていても実践の段階で見解の相違が現れることもあるため、常に綿密な話し合い、確認を必要としている。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		・ST、OTの見立てを参考に、保育士としてのアセスメントを行っている。本人の強みを生かした支援となるよう行動観察を重視している。標準化されたツールも使用し、発達を確認している。	
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		・年齢が低いため本人の意向が確認しにくい、一人一人のこどもに合った計画になるよう職員会議で支援者会議を繰り返し行っている。 ・こどもの支援に必要な項目を設定し、具体的な支援内容を設定している。	・家族支援、移行支援、地域支援・地域連携においては、具体的な記述をしていく。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		・担当者を中心にチームで出席者、人数に合わせた活動内容を考え、立案している。実行については常に話し合いに努めている。	・チームで行うが個人の視点の相違があるので、終了後には必ず話し合いを行い次に生かす。 ・新しい活動を取入れる時は、事前に職員間で取り組み方を検討し合ってからにするよりよいプログラムとして行える。 ・立案者はねらいや考えについて話し、全職員でその子に合ったものであるか検討し、意見を出し合っていくとより良いものになる。

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
適切な支援の提供	18 活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		・こどもの様子に合わせて随時変化させている。繰り返し楽しむもの、新たに取り入れるもののバランスを考えて決めている。 ・新しいことが苦手で、変化が苦手なこどももいるので、緩やかなプログラム、環境構成としている。	・固定化していたものが逆に消えつつある気がするため、以前楽しめなかったことでも日を置いて経験すると楽しめることもあるので、話し合っ取り入れていきたい。
	19 こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	○		・年齢的にも発達的にも(1~2歳)個別活動が多い時期であるので、一人一人の気持ちを満たしながら小集団での活動も少しずつ経験してけるように計画を作成、支援している。	
	20 支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		・前日の夕礼にて打ち合わせ、再度当日の天候、参加人数、利用者の状況に応じて、支援内容、職員の動きを確認している。支援内容や役割分担を明確にしてから支援を行っている。	
	21 支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		・毎日夕礼で、支援の振り返りと打ち合わせを行っている。親子の様子から気づいたことや支援した内容を報告し、職員間で話し合い共有している。	
	22 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		・振り返りの中で支援や対応の考察を行い、毎日記録している。	・改善点が伝わりやすい記録となるよう、今後も記録の様式については検討を重ねていく。
	23 定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		・4~6か月ごとにモニタリングを行い、計画の見直しをしている。子どもの姿、保護者の意向を丁寧に確認している。	・計画にあった支援ができていないか、時々職員間で確認し合うことが必要。
関係機関や保護者との連携	24 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		・管理者、児童発達支援管理者、そのこどもの担当保育士が出席している。会議の内容は職員にも共有している。	
	25 地域の保健、医療(主治医や協力医療機関等)、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		・親子を取り巻く関係機関として必要に応じてつなぐことを意識している。	・関係機関へ出向くことに不安を抱えている保護者に対し、職員が付き添っていきやすい。 ・保健センターからの情報は利用段階で知っておいた方が支援の方針も判断しやすい。情報を得られるように関係づくりを続けていく。
	26 併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	○		・保育園、幼稚園のモニタリングを通して、情報共有と相互理解を図っている。 ・保育園見学や交流は職員も付き添う等の支援を行っている。	・園によっては支援の方針が異なるところもあるため、子どもの思いに寄り添えるよう保護者とは慎重に話し合っていく必要がある。
	27 就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。		○	・保護者から相談があった際には、発達支援員(教育課)につなげるようにしている。	
	28 (28~30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29 質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30 (自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31 (31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。	○		・巡回相談、地域療育支援事業等において積極的に参加している。	
	32 保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	○		・地域の保育園児に遊びに来てもらったり、保育園へ出かけて交流できる場をつくらしている。	
	33 日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		・親子通園であるので、日常の療育の中でも十分なコミュニケーションをとり、子どもの発達について共通理解をもつようになっている。	
34 家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		・家族教室にてペアレントプログラムを実施した。 ・講演会等の情報提供もしている。		
保護者への説明等	35 運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		・契約時に丁寧に説明をしている。その他質問があった時にも説明している。	
	36 児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		・入園時のアセスメント、計画の見直しの懇談の際に、子どもの姿から意思を捉えるよう努め、また家族においてもその意向を確認し、子どもの思いや発達段階とのすり合わせを行っている。	・利用者本人の意思確認が難しい。観察力と気持ちを汲み取る力がとても重要である。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
保護者への説明等	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	○		・支援計画を示しながら、目標や内容について丁寧に説明をし、保護者から同意を得ている。 ・具体的な説明を加えながら伝わりやすくなるようにしている。	・こちらの説明を保護者が十分に理解されているか、説明時以降も支援計画の内容について話す機会があるとよい。
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		・親子通園のため、日常的に子育ての悩みに応じられるよう保護者が話しやすい空間づくりを心がけている。 ・要望があれば相談に応じ、助言や支援、情報提供をしている。	
	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		・父母の会や保護者会はないが、月1回座談会を行い、保護者同士で交流する機会を設けている。 ・きょうだい同士で交流する機会として夏まつりを実施した。	・きょうだい同士での交流の機会は少なく、今後増やしていけるとよい。
	40	こどもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		・相談や申入れがあった場合は、速やかに面談の機会を設けている。園内で解決できない場合は、他機関との連携を図って対応する。契約時に周知している。	
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		・毎月園だよりを発行し、一人一人に詳しく説明し手渡ししている。 ・HPでわかき園の概要を発信している。	・HPの内容の見直しを行い、更新する必要がある。
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		・個人情報がかかる書類については鍵のあるロッカーに保管している。日頃の会話の中でも個人情報が漏れないように十分配慮している。 ・親子と話す時は、内容によって配慮が必要な場合もあるため、周囲の様子をよく見て話すようにしている。	
	43	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		・「伝える」手段として、利用者にわかりやすい言葉を使うこと、又、ジェスチャー、絵カード、スケジュール等を利用し、一人一人に合わせて伝える配慮を行っている。	
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		○		・事業所の特性上、地域の方を招待するのは難しいところもあるが、何らかの形で関わる機会をつくっていけるとよい。
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		・各種マニュアルは策定しており、職員にも周知している。毎月様々な想定で訓練を実施し、親子にも参加してもらっている。訓練後は職員間で見直し、次に生かせるようにしている。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		・計画は策定しており、非常災害時に備えて訓練を実施している。	
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		・入園前の聞き取りで、子どもの状況を確認し、職員で共通理解している。病院受診後は現在の状況について再度確認をしている。	
	48	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		・アレルギーのある子は医師によるアレルギー疾患生活管理指導書を提出してもらっている。 ・園から提供するおやつについては、毎回成分表を掲示し、親に確認してもらっている。	
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		・安全計画を作成し、安全に関する様々な対策を行っている。 ・エビペン研修や応急手当、AEDの使用方法について等の研修を受ける機会があり、職員間で確認し合っている。	
	50	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		・毎日の生活や活動に関連した内容（熱中症アラート、利用者の感染状況等）については掲示し、口頭でもその都度説明している。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		・ヒヤリハットの事案が起きた時は速やかに報告し、全職員で共有している。 ・再発防止に向けて全職員で意見を出し合い、改善策を共通理解している。	
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		・外部研修で学んだ内容の伝達をしたり、虐待防止や人権についての園内研修を実施し、職員の意識向上に努めている。 ・虐待発生時の対応について職員に周知している。	
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	○		・今年度は計画に記載が必要な子はいない。 ・虐待防止委員会において全職員で話し合う中で、事例を出してどのような場合が身体拘束に当たるかどうかの確認等を行った。		